



夏場を迎えるに当たり、暑熱対策をしっかりと!!

～早めの暑熱対策と吸血昆虫対策【牛編】～



近年、毎年のように「異常気象」の言葉を耳にします。昨夏の気温上昇は記憶に新しく、本県でも日最高気温 35℃以上となった日数は、統計記録上の過去最高を記録しました。また、平均気温は 1970 年代と比べ、2010 年に入ってから約 1.5℃上昇しています（下記グラフ）。暑さに弱く、限られた空間で過ごす牛にとっては、人が感じる以上に快適な畜舎環境を設定してあげる必要があります。

暑熱対策には、換気扇の増設や屋根への遮熱塗料塗布、遮光ネットの設置、給水配管の拡大、栄養管理など様々な取組があります。昨年、当所では暑熱対策状況を確認するため、いくつかの農場で畜舎内の風速測定を行いました。牛にとって適正な風速は、2m/秒といわれていますが、十分な風速が確認できない農場が多くみられました。実際に測定することで、換気扇の台数や位置、角度など改善が必要なポイントもみえてきます。国や県の補助事業も活用しながら、効果的な対策に取り組んでいきましょう。

また、既にサシバエやアブなどの吸血昆虫が活発化してきています。吸血昆虫は、吸血時の強い痛みにより牛にストレスを与えるだけでなく、牛白血病ウイルスなどの病原体を媒介する要因にもなります。サシバエ対策として、①幼虫（ウジ）対策と②成虫対策があり、特に①が重要です。幼虫の発生源となる糞尿や残餌の除去や幼虫の脱皮阻害剤の適正散布などにより、成虫の発生を抑えることができます。



②の成虫対策は、隠れ場所となる牛舎周囲の草刈り、忌避剤散布、防虫ネットの設置(2mm目、高さ2m程度)などが有効です。

今年も早めの暑熱対策や吸血昆虫対策で牛のストレスを減らし、生産性の低下を防いでいきましょう。また、当所では牛白血病の発生・まん延防止のため、サシバエ対策を含む各種対策についても積極的に指導を行っていますので、気軽にご相談下さい。

(加藤)

滋賀県(彦根) 平均気温および35℃以上日数 (気象庁データ)

